

LCR

2003

VOL. 1

Light Curing Reconstruction

光硬化工法協会会報

輝きがライフラインをガードする



光硬化工法協会会長
大岡 伸吉

新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、良いお年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は光硬化工法協会誕生の年でありました。

光硬化工法協会は、日本SPR工法協会とインパイプ工法Ⅱ型研究会の2つの組織で普及活動していたインパイプ工法とシームレスシステム協会で扱っていたシームレスシステム工法という、『光』による2つの管きょ更生工法を1つの協会で扱うべく昨年5月31日に発足しました。6月以降順次地域支部も設立され、昨年12月末で8地域支部、会員389社の組織となりました。

日本SPR工法協会をはじめ関係各位の皆様ならびに会員各位には特段のご配慮を賜り、深く感謝と御礼を申し上げます。

下水道管路は新設から維持管理の時代に入り、管きょ更生工法はますます注目を集めております。

当協会では、昨年の組織づくりに続き、本年は「早い」「確実」「コンパクト」「静か」等々『光』による更生工法の良さを関係各位の皆様にご理解いただくべく普及活動を積極的に展開いたします。

また光硬化工法技術の向上にも努め、下水道事業の一端をささえられることが出来るよう活動してゆく所存です。

新たな協会事業の一つとして、本年より会報を発行することに致しました。

管更生事業の動向や解説も含め、協会情報を提供させていただきますので、今後とも皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



誰でも理解できる「光硬化工法」に期待 -会報の発刊を祝福する-

環境資源研究所 最高顧問

中本 至

(工学博士・元日本下水道事業団理事長)

いま、企業において最も求められているのは「新しい発想」「優れた創造」「効率的な情報収集」「積極的な売り込み」などです。

ヒット企画、ベストセラー商品などは、ほとんどが枠にはまらない発想・創造から生まれています。

昨年話題になったノーベル化学賞授賞の田中耕一氏は、産業界では博士号も持たず、学界でも無名であっただけに、日本で「博士偏重」を良しとしない方は、この田中氏の授賞に気分をよくしたことでしょう。

お隣の韓国では、5年ほど前に著名な電子や自動車を代表する大企業が、一斉に「猛烈能力主義」を導入しました。「知識経営」を旗印に掲げ、修士、博士の争奪戦を繰り広げた経緯があります。その結果、サムスン電子では博士の人数が1,500人と、日本の最大博士取得企業の日立製作所の1,400人を一気に抜いてしまいました。

ところが、頭でっかちの理論的野球チームは勝てなくなってきたように、「人材戦略」の軽視を危惧するようになってきたのです。

そんな時に、作業着姿で新聞会見するノーベル賞の田中氏の姿が、繰り返しテレビで放

映されたのを眺めて、韓国ではショックを受けたようです。

さて、ライフラインの「静脈」である日本の下水管きよをつぶさに調査するに当たって、すでに32万km埋設されている管きよの適正な管理は、下水道事業の緊急な課題です。

下水管きよの劣化、腐食等とその更生の実態は、先述のように博士号取得とはほとんど無関係であり、まさしく「新しい創造」と「積極的な行動」が必要ではないでしょうか。

その中で、シームレスシステム・インパイプ工法の『光硬化工法協会』が、平成14年5月に発足し、普及活動をおこなっていることに敬意を表するものであり、「早い施工性」「信頼される確実性」「良い品質性」を追求している姿に期待感、安心感が持たれるものであります。

とにかく「優れた光硬化工法」による管きよの更生を全国的に展開しなければならないでしょう。

そのためにも、今回会報『LCR』がこの度発刊されることは、「全国的展開」として「当を得たもの」であり、今後の「光硬化工法」の進展を期待します。

「創刊によせて」

管路診断コンサルタント協会 会長

澤村 三津久



新年明けましておめでとうございます。会員の皆様には、すがすがしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。新しい年を期し、「光硬化工法協会」が会報を発刊されましたことを心からお祝い申し上げます。

貴協会は、創意工夫したパンフレットを作成するなどして、支部の創設、展開を積極的に進めており、感銘を受けておりました。この度、会報が発刊されますことは、貴協会の更なる発展の一大契機となることと、ご同慶にたえません。

さて、わが国の下水道投資は、昭和45年の公害国会から、下水道の一部改正が行われ、以来目覚ましい勢いで伸びてきました。管路施設のストックは平成12年度末、36万2千kmとされています。施設の老朽化は、今後急速に進むこととなり、社会生活に重要な影響を及ぼす恐れがあります。下水道管路の改築・修繕は、従来開削による敷設替えが中心であり

ましたが、交通事情や地下埋設の輻輳により開削工事が困難となってきたこと、また工事騒音に対する地域住民の対応に加えて、開削の工事費が割高となってきたこと等から、近年非開削による管更生工法が主流となりつつあります。管更生工法は日進月歩の技術革新が進んでおり、貴協会の設立は誠に時宜を得たものと考えておりました。これからは管路調査企業、コンサルタント企業、材料企業、施工企業、維持管理企業等各分野の観智を結集して、下水道のライフサイクルコストの低減を計るべく、合理的な技術や手法を考えていかなければならないと考えます。

この会報が会員企業、関連業界、行政とのパートナーシップとしての役割を担って戴きますよう期待します。

今後管更生工法が進展する中で貴協会のますますのご活躍を祈念致します。

特集 写真で見る協会活動

下水道管きよを光硬化樹脂で改築・更生する「シームレスシステム工法」と「インパイプ工法」の2工法が大同団結し、当協会が昨年5月31日に産声を上げました。

皆様にご支援ご協力いただき、見守られて早くも半年が経過いたしました。そこで協会の昨年の活動を写真で紹介いたします。

設立総会

会員数356社で出航

設立総会および設立記念パーティを昨年5月31日に行いました。会場となった東京・新橋のホテルには会員356社が集まり、協会の出航を盛大に祝いました。

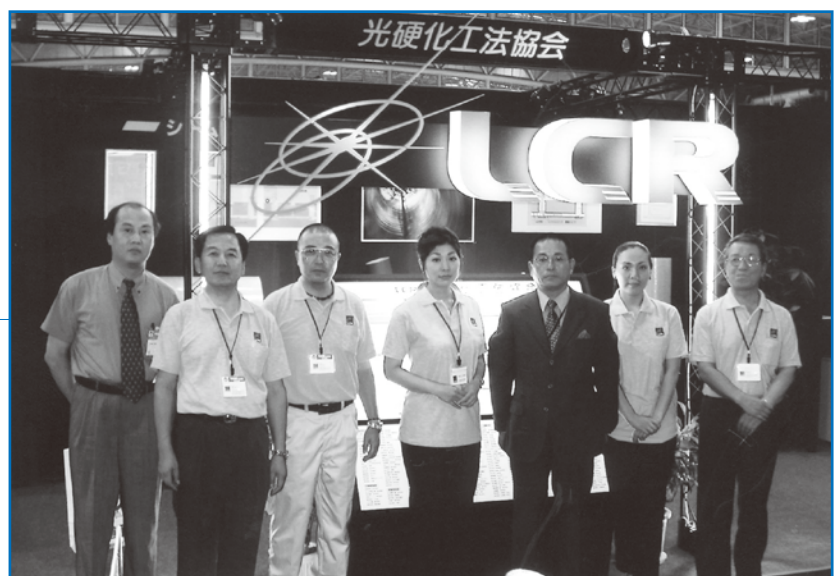


下水道展

下水道展に出展！！

真夏の下水道最大イベント『下水道展'02名古屋』が7月23日から26日の4日間、名古屋市港区のポートメッセなごやにて開催されました。期間中の入場者数は約74,000人、猛暑に拘わらず盛況のうちに閉幕しました。本協会も展示ブースを出展し、多くの来場者を得ました。

【写真＝有馬理事と本部スタッフ】



施工展

下水道管更生技術デモ施工展

「下水道管更生技術デモ施工展」が11月8日、大阪市コスモスクエア駅前広場で開催され、当協会近畿地域支部が参加しました。参加団体は24団体。地方自治体、コンサルタントなど関係者約1,300名が集まるなか、シームレスシステム工法に熱い視線が注がれました。



デモ施工

各支部でデモ施工を実施

F R P内面補修工法協会と共催のデモ施工を主要な地域で開催しました。どの会場にも多くの地方自治体、コンサルタント等関係者が高い関心のもと参加していただきました。



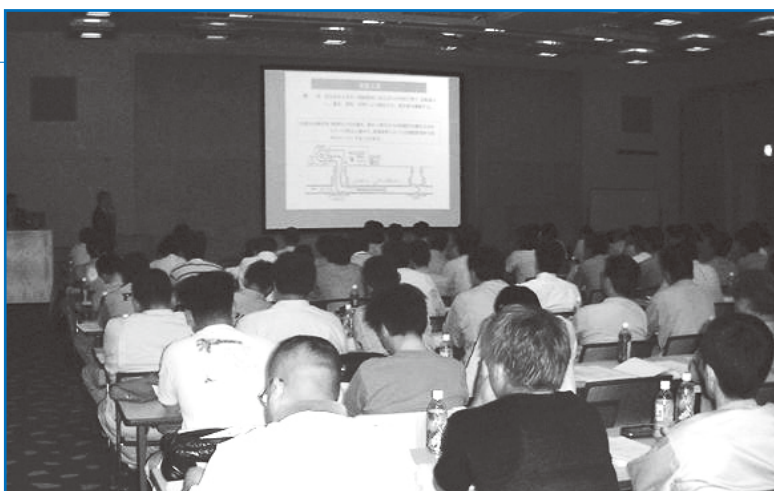
デモ施工の実施状況	日時	場所	参加者数
	7月17日	仙台	72
	9月26日	広島	96
	10月9日	福岡	117
	10月18日	大阪	240
	10月24日	八戸	40
	10月25日	福島	35
	10月29日	金沢	88
	11月15日	東京	135
	11月22日	名古屋	290
			計 1,113

認定

光硬化工法の監理技術者を認定

管更生の施工現場には専門技術を熟知した監理技術者の配置が必要とされています。当協会では光硬化工法監理技術者の講習会および筆記試験を行い、基準の達した技術者に対し認定証を発行しています。

講習会及び認定試験の実施状況	日時	場所	参加者数
	8月21日	名古屋	57
	8月23日	大阪	160
	8月27日	金沢	68
	8月28日	大阪	142
	8月29日	東京	43
	8月30日	東京	66
	9月3日	広島	52
	9月5日	福岡	176
	9月10日	大宮	72
	9月13日	名古屋	80
	9月19日	仙台	46
	12月6日	大阪	75



このページでは、次号より管更生事業の動向や解説、光硬化工法技術などの紹介をしていきたいと考えております。皆様のご意見ご要望等がありましたら事務局までお知らせください。



副会長近畿地域支部長 原田 康孝

皆さん、明けましておめでとうございます。

昨年は、会員皆様また各支部会員の皆様には光硬化工法協会の活動にご支援、ご協力をいただき厚くお礼を申し上げます。

さて、昨年はワールドカップサッカーが日本・韓国の主催で開催され改めてサッカーの虜となり燃えました。世界的なスポーツなんですね。選手の契約金の高さにも驚きました。光硬化工法協会におきましても昨年は、財団法人新技術推進機構より、審査証明をいただき、どの自治体にもご採用いただける商品となりました。また、5月31日にシームレス、インパイプが合体し、光硬化工法協会誕生した年で

もありました。全国組織も東北、北関東、南関東、中部、近畿、中国、九州と支部が誕生し各支部でのデモ施工を行い認識を高め、コンサル、自治体の皆様にもご理解いただいた事と思います。

いよいよ今年は各地でLCRの採用実施の運びとなりますが、競争に負けない施工技術と品質向上を目指して皆様と共に国民の財産を守っていきたくと考えております。また、各支部にお邪魔してご意見を拝聴させていただきたいと思っています。

最後に、皆様にとって健康で明るい良い年でありますようにお祈り申し上げます。



東北地域支部長 木村 栄喜

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は本支部の事業活動について、格別のご配慮を賜り厚く御礼申し上げます。

当支部は、昨年7月16日に設立総会を開催し、以後7月に仙台市、10月に八戸市・福島市と3会場で研修会を開催しました。研修会の内容としては、シームレスシステム工法並びにインパイプ工法の技術説明とシームレスシステム工法における試験施工を行い、3会場で自治体・会員等を合わせ約150名の参加者がありました。会員による自治体向けの営業としては、当工法協会の工法の特性を紹介し、即設管の状況・条件に合わせた適切な材料厚の選定、設備の縮小化、光硬化による施工時間の短縮等、現在

発注者側が市街地における混迷した施工条件を解決し、工事における住民の方々や交通管理体制の負担の軽減にも寄与する工法であり、総体的にも費用を削減出来るものとして薦めています。これらによりご理解をいただき発注された物件も出始め、当支部といたしましては、今年度も同様の研修会の開催並びに活動の継続を進めて行く考えであります。

今後も、当協会会員と共に、光硬化工法の多くのメリットを積極的にPRし、光硬化工法の普及に努めてまいり所存でございます。

本年も会員皆様の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



北関東地域支部長 真下 恵司

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

厳しい経済情勢の中、公共事業を取り巻く環境はいばらの道を進んでいるかのようでありますが、唯一明るい材料がこの下水道維持管理に関する事業のように思われます。

その中であって管更生事業はますます増加の傾向にあり会員が一丸となりおごることなく発注者に喜んでいただける技術を提供していかねばならない時代にさしかかっております。

更生工法もただ施工すればいいと言う時代ではな

く環境にも配慮し安全で的確な維持管理を目指し今こそ、我々会員は光硬化工法の良さをPRし、更生工法全般についても協力体制を築いていかなければ成らない時でもあります。

北関東地域支部は昨年6月26日に発足させていただき、昨年度は技術者の育成を重点項目におき70名の監理技術者を養成させていただきました。

今年は、光硬化工法現場見学会・自治体向け説明会・営業研修会を計画させていただいており、県支部のみなさまのご協力ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



南関東地域支部長 山崎 恵一郎

新年明けましておめでとうございます。

ここ数年日本経済が低迷する中で、我々を取り囲む建設業界は特に厳しい環境下にあり、会員の皆様方は不安と景気回復への期待の中で新しい年を迎えたことと思います。

光硬化工法協会・南関東地域支部も発足から4箇月を過ぎ、その間支部活動は協会本部のご支援のもと、関係各自治体への広報、会員各社の営業マン教育、及び監理技術者教育等を実施してまいりました。

広報活動を通じて、各自治体や関係企業者は更生工法に対して大変興味と期待を持たれている様子で、今後当工法が持つ品質をお客様に提供していけば必ずご理解を得られると確信しております。

新しい年を迎えて今後は広報活動を主体に、より確かな信頼が得られるように、そして光が見えるように活動を進めて行きたいと考えております。

会員皆様のご健勝を祈念申し上げます。



北陸地域支部長 中村 邦雄

北陸地域の下水道普及率は、ほぼ全国の平均と同じく6割を超え、他の地域と同様、私たち市民にとって欠かすことの出来ないライフラインとなっています。

このため、日常生活に欠かすことの出来ない下水道管路に、適切な維持管理を行うことが北陸においても急務となっています。

光硬化工法協会北陸支部は、昨今の厳しい経済情勢の中で、私たちの子孫に良質な社会資本を引き渡

すため、『よりよい品物をより安く』提供できるよう、技術の研鑽に努める企業32社が集まり、昨年6月に設立された支部であります。

昨年は支部活動として、会員の技術力向上を目指した『監理技術者講習会』や、自治体並びに設計者の方々に、光硬化工法の理解を深めて頂くためのデモ施工を行いました。

本年は当地区における、管更生事業の拡大に向けた普及活動に精勤する決意であります。



中部地域支部長 水谷 裕

明けましておめでとうございます。日頃より会員の皆様並びに本部の皆様には、ご協力、ご支援を賜り心から御礼を申し上げます。

昨年を振り返りますと、まず7月10日に予定しておりました光硬化工法協会中部地域設立総会が季節はずれの台風のため延期となりました。そのため会場の再手配など混乱いたしました。支部役員の方々の熱意とご尽力で末広がりのおめでたい8月8日に開催することが出来ました。

その後、技術講習会を開催しましたが、予想以上の受講者が参加され、関心の高さ、光硬化工法の期待の大きさを感じさせられました。

また11月22日には光硬化工法協会、クリスタルライニング工法協会、FRP内面補修工法協会の三工

法協会が合同で「甦る管路施設」をテーマに実演説明会を開催いたしました。当日は穏やかな快晴に恵まれ、下水道事業団の元理事長 中本至先生をお迎えして、ご講演いただきました。参加者数は約300人の来場者となり、管更生に対する関心の深さと今後の市場の拡大を確信できた素晴らしい実演説明会であったと思っております。

今年はさらに当工法の素晴らしさを会員が一丸となってPRして、実績をつけることを第一の目標として、会員のさらなる技術レベルの向上を図りたいと思っております。その祈りにはご協力、ご指導ほどよろしくお願い申し上げます。

最後に会員各社のご繁栄と皆様方のご多幸をご祈念申し上げます。



中国地域支部長 朝倉 勉

中国地域支部も昨年8月7日の地域支部発足以来、会員数も19社から23社に増え、監理技術者講習、広島市における施工研修会(デモ)、国土交通省の建設技術フェア(広島・島根)への出展等の運営を行ってまいりました。

中国地域支部は、瀬戸内海側に東より岡山県、広島県、また日本海側に東より鳥取県、島根県、そして一番西に瀬戸内海・日本海両方に面した山口県の5県を営業圏に抱えており、この中で平成12年度末の下水道普及率が80%を超えた市町村は、瀬戸内海側を中心に19市町村となっております。

地域によっては管の老朽化も進んでいる可能性も有り、管更生も徐々に増加することを認識し、地域支部長、各県支部長のもと、会員一同、光硬化工法の優位性を武器に、鋭意営業を進めているところで

す。今後も、協会本部のご指導を頂き、各地域支部との連携を深めながら、地域に密着した営業を展開していく所存です。

最後に、新年を迎え関係各位、会員各位のご健康をお祈りし、中国地域支部の紹介とさせていただきます。



九州地域支部長 梅林 伸八郎

皆様新年おめでとうございます。

昨年は我々建設業界においても大変厳しい年だったと思われれます。今後は下水道管の老朽化対策が注目され重視される様になり、こうした時期、昨年は七月に光硬化工法協会九州地域支部が設立されました。北九州地区では自治体維持管理担当者の方に陳情し、シームレスシステム工法のライナー製作工場や大阪地区における施工状況の視察が実現でき、なお、福岡地区では自治体の維持管理担当・コンサル

タント・その他多くの関係者の皆様を迎え、シームレスシステム工法・FRP内面補修工法のデモ施工を行うなど大変慌ただしい年でしたが、こうした行事も光硬化工法協会九州地域支部の基礎作りの年であったと考えております。そこで今年はさらなるPR強化と都市部における協会員の充実を計り、一地区でも多くの都市部の工法認定を頂き、光硬化工法の発展と普及に努力し、社会の環境作りに貢献して参りたいと思っております。

ご寄稿

百兆円の投資の財産を保存せよ

-会報『LCR』の発刊を祝す-

衆議院議員 中本 太衛

(国土交通・外務・災害対策特別委員会委員)



私が住んでいる神奈川県相模原市は、およそ人口60万人の大都市東京・横浜の近郊都市ですが、すでに下水道整備は着実に進んで、普及率も90%を超えており、当然のことながら、下水道の恩恵を受けて、快適な生活を享受しております。

振り返ってみますと、私が物事の記憶が徐々に育まれた5才のころ、福岡市でも下水道が無い「汲取り式便所」でした。

だから、姉がわざと「便所の下からお化けが出てくるよ」とからかうと、とても便所へ行くのが怖しくて、母親を起こしたものです。

昭和45年、東京へ転居して初めて本当の下水道を経験して「水洗便所」「蚊や蠅がいない」「汚れていない側溝」などの下水道の役割、効果を子供心に認識したものです。

ところが、昭和47年に水戸へ転居。またもや福岡時代の水環境暗黒時代に逆戻り、あの苦痛だった「汲取り式便所」で、夜の恐怖の4年間を経験したのです。

昭和51年、下水道の無いのが欠点だった、素晴らしい水戸の生活と別れて東京へ…。

今では、懐かしさ一杯の直方、福岡、水戸なども全て下水道が整備されたと聞いております。

さて、私は国会へ出ましてから、進んで下水道事業の関係する国土交通委員会、下水道の開発途上国への支援の関係する外務委員会、さらに降雨による都市災害を防除、復旧する災害対策特別委員会に入って、下水道事業等の促進に取り組んでおります。

ところが昨年、東京都の下水道施設の処理場、ポンプ場、管きよをつぶさに視察することが出来ました。なかでも地中にある下水管きよが、耐用年数が過ぎたり、悪い物理的・科学的環境によって、相当に病んでいるのを目視しました。

そして「下水道先進諸外国でも、大きな路面陥没や他施設への影響を考えて、早目に管の更生を行っている」との説明を受けて、はじめて「下水道の莫大な資産を保存する」ことの重要性を認識したのです。

その管きよの更生工法に「光硬化工法」という新しい技術を駆使していることも教示され、速効性、堅実性、経済性などで有効なこの工法の採用に賛同したものです。

そして、この工法の会報『LCR』の発刊を心より祝します。

編集後記

日頃よりご支援ご協力いただいております関係者の皆様ならびに会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年は日本でのワールドカップ開催やノーベル賞のダブル受賞、北朝鮮に拉致された5人の帰宅などいろいろな出来事があった1年となりました。その激動のさなか、皆様の特段のご高配ご協力をいただきまして、5月に本協会が産声を上げることができました。この場を借りて、深く感謝と御礼を申し上げます。

さて、下水管きよは現在、地球を8巻きもするほどの距離が埋

設されています。今後さらに下水道管路の維持管理は社会全体を取り巻く大きな課題としてクローズアップされていくと確信しています。

そこで会員各位や関係する皆様にお役に立てればと会報を創刊いたしました。耳寄りな情報を掲載し皆様の活動のサポートになるような会報にしていきたいと考えております。発行は年3回を目指してまいりますので、今後とも一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。



光硬化工法協会

〒160-0004 東京都新宿区四谷2-10-3
Tel: 03-5367-5173 Fax: 03-3355-5786

東北地域支部

宮城県仙台市宮城野区新田4-32-28
(株)アームズ東日本内
TEL: 022-231-4039 FAX: 022-231-5344

北関東地域支部

埼玉県蓮田市西新宿2-117
真下建設(株)蓮田支店内
TEL: 048-768-7285 FAX: 048-769-1714

南関東地域支部

東京都新宿区西新宿4-32-22
小田急建設(株)内
TEL: 03-3370-3126 FAX: 03-3374-5256

北陸地域支部

石川県金沢市今町15-1
(株)キープクリーン内
TEL: 076-257-6644 FAX: 076-257-6132

中部地域支部

愛知県名古屋市中区上り津2-1-11 光菱ビル
TEL: 052-350-4370 FAX: 052-350-4371

近畿地域支部

大阪府大阪市中央区北浜東2-13 幸ビル
TEL: 06-6942-1027 FAX: 06-6942-1028

中国地域支部

広島県広島市中区大手町3-8-3 今井ビル
大林道路(株)中国支店内
TEL: 082-243-1966 FAX: 082-245-4605

九州地域支部

福岡県北九州市小倉北区小文字1-2-42
(株)三和綜合土木内
TEL: 093-541-1117 FAX: 093-541-3419